

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

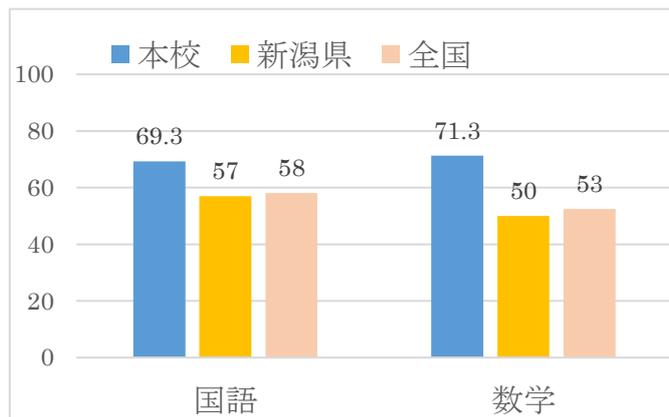
県立柏崎翔洋中等教育学校

1 概要

全国学力・学習状況調査が全国の中学校3年生を対象に実施（令和6年4月16・18日）されました。今年度は、国語、数学の2教科についての調査と、質問紙によって普段の生徒の学習意欲・学習環境・生活習慣やICT活用等について生徒の意識調査がありました。以下に、調査結果とともに、国語科と数学科による学力分析と今後の課題について示します。

2 平均正答率

平均正答率(%)	国語	数学
本校	69.3	71.3
新潟県	57	50
全国	58.4	53.0



3 全国の傾向

今回の調査結果により、全体的な調査結果のポイントとして次のことが挙げられています。

<国語>

- 事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られた。
 - 自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。
- 小・中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要。

<数学>

- 図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

→日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要。

【国立教育政策研究所 HP より】

4 本校の結果分析と今後の課題

(1) 国語

国語については、県平均を12ポイント、全国平均を11ポイント上回っています。特に優れている点として、「読むこと」と「書くこと」については、県、全国の平均を大きく上回る結果が出ています。また、国語の「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点からも、県、全国平均を大きく上回っており、特に「思考・判断・表現」の正答率が高くなっています。

成果として「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」については、すべて県、全国の平均を大きく上回っています。特に「書くこと」が得意なようです。新しい学習指導要領で重視されている「対話的で深い学び」の実現に向け、本校国語科で「言葉による見方・考え方」を働かせる授業づくりに加え、アウトプットに取り組んできた成果だと考えます。今後も引き続き、対話や討論で自らの読みを多角的に見つめ直し、深め、表現して伝えられるよう、授業改善を進めていきます。

今後の課題としては、「話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する」「本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する」「本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」など、文章と資料を読み合わせるという共通テストの新傾向問題に関わる設問の正答率が県、全国と比較して低いので、タブレットを用いて資料やデータを調べたり、文章を読み取ったりする活動を増やしていきます。その上で、教科書をもとに授業で学んだこととインターネットを用いて調べた情報とをレポートにまとめる場面、それらに関してペアやグループなどで対話する場面を授業の中に設定し、表現力の向上にもつなげたいと考えます。本校生徒にも、このような場面を大切にして自分の力を伸ばせるよう期待します。

(2) 数学

① 全体的に全国平均を上回った

- ・ 習熟度別の少人数授業を行っている(Aクラス20名、Bクラス20名、Cクラス10名)。Aクラスは、発展問題を多く扱い、意見交換の場面を多く取り入れている。Cクラスは、基本問題を丁寧に進めている。この習熟度別授業の成果が表れたと考える。
- ・ 日常的に家庭学習課題を示し、丁寧に点検することで定着がはかれたと考える。特に当該の3学年は、まじめにこつこつと努力する生徒が多く、課題への確実な取組が結果につながったという印象がある。

② 領域別には、「数と式」の領域で全国平均を大きく上回った

- ・ 「数と式」の分野は、1年次から「正負の数」、「文字式」を丁寧に指導し、土台を固めた。課題等で問題演習を充実させ、確実に定着させてきた結果といえる。
- ・ 「数と式」の領域だけでなく、どの領域も高校数学へのつながりを意識しながら、スパイラルに学習するよう努めてきた。今後も継続したい。
- ・ 「関数」の領域で、式とグラフの特徴を関連付けて理解することができない生徒が少なからずいる。この課題に対しては、中高一貫校の良さを最大限に活用して、中学数学の関数と高校数学の関数のつながりを意識して、単元構成を見直しながら定着をはかっていきたい。

③ 観点別では、思考・判断・表現を問う問題が全国平均を大きく上回った

- ・ 前述のように習熟度別の授業展開をすることで、学力が近い生徒同士でグループワークやペアワークを頻繁に取り入れた。この活動の中で、相手に自分の考えを伝える力、仲間と協力して難しい問題に根気強くチャレンジする力が養われたと考えられる。

④ 出題形式別では、記述式の問題が全国平均を大きく上回った。

- ・ 普段から、高校での学習を意識して、解答の記述の仕方を丁寧に指導している。前述したようにペアワークやグループワークといった活動を十分に取り入れたことにより、その答えとなる根拠をきちんと相手に説明する力が養われ、この結果につながったといえる。